

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	はりきゅう理論Ⅰ
担 当 教 員	赤井 昂平
カ リ キ ュ ラ ム 名	はりきゅう理論Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	鍼灸治療の概要を学ぶことを目的とする。鍼は鍼の種類、手技、刺鍼について、灸は艾の種類、施灸の種類について主に学習する。また、鍼灸治療についての刺激量、適応と限界、リスク管理について理解する。
到 達 目 標	鍼灸治療の概要、道具、リスク管理について説明できる。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	令和3年 国際東洋医療学院 鍼灸科 卒業 令和6年 国際東洋医療学院 柔道整復科 卒業 令和8年 平成医療学園専門学校 東洋療法教員養成科 卒業 令和8年 平成医療学園専門学校入職 入職後の担当科目 解剖学Ⅱ(筋) 解剖学Ⅲ(脈管) 臨床医学各論Ⅲ(外科・整形) はりきゅう理論Ⅰ 生体観察(触察解剖) 臨床実技Ⅲ 実務上の業績(臨床経験等) 2024年4月～2026年1月:医療法人垣尚会兵田クリニックでの施術

1 項 目	第1章 概論
学 習 目 標・ポイント	鍼灸施術の定義、鍼灸治療の特徴、鍼灸治療の定義と特徴を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
2 項 目	第2章 鍼の基礎知識
学 習 目 標・ポイント	鍼と鍼管、古代九鍼、毫鍼各部の名称、長さ、太さ、材質、特徴、について理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
3 項 目	第3章 刺鍼の方式と術式
学 習 目 標・ポイント	刺鍼の方式と前揉、押手、刺手、切皮、刺入について理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
4 項 目	第4章 特殊鍼法
学 習 目 標・ポイント	小児鍼、皮内鍼、灸頭鍼、低周波鍼通電など特殊な鍼法について理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
5 項 目	鍼の小テスト／鍼の臨床効果
学 習 目 標・ポイント	第2～4章までの確認／鍼の効果の紹介、鍼療法の復習、鍼の効果を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
6 項 目	第5章 灸の基礎知識
学 習 目 標・ポイント	もぐさの品質と種類、線香、それぞれの製造法について理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
7 項 目	第6章 灸術の種類
学 習 目 標・ポイント	有痕灸、無痕灸など灸の種類を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
8 項 目	灸の小テスト／灸の臨床効果
学 習 目 標・ポイント	第5～6章までの確認 灸の効果を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
9 項 目	第7章 リスク管理
学 習 目 標・ポイント	1.安全対策の基本／関連用語の定義／施術上の一般注意事項を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
10 項 目	第7章 リスク管理
学 習 目 標・ポイント	鍼施術の禁忌／灸施術の禁忌／2.感染対策(感染対策の基本、標準予防策1)を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
11 項 目	第7章 リスク管理
学 習 目 標・ポイント	2.感染対策(標準予防策2)／個人防護具／鍼刺しの予防／感染性廃棄物の処理を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
12 項 目	第7章 リスク管理
学 習 目 標・ポイント	施術野の消毒／施術器具の洗浄・消毒・滅菌／3.有害事象の種類と対処法1(鍼施術)を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
13 項 目	第7章 鍼灸の臨床応用
学 習 目 標・ポイント	3.有害事象の種類と対処法2(灸施術)を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
14 項 目	リスク管理と臨床応用小テスト／臨床に応用する。
学 習 目 標・ポイント	第7章の確認／リスク管理を理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	
15 項 目	第2～7章の要点を総復習
学 習 目 標・ポイント	重要箇所を再度、理解する。
使 用 す る 材 料	はりきゅう理論(教科書)、自作プリント
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	動物生理Ⅰ
担 当 教 員	内野 容子
カ リ キ ュ ラ ム 名	生理学Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	2(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	神経・筋の各章を概説し、これら各項目において身体の正常な生理機能の基本を学ぶ。 解剖学と同様に基礎科目であり、この知識を基に2.3年生で各疾患についての病態理解へ必要な知識を身につける。
到 達 目 標	1動物生理学の範囲について教科書を読み内容を理解することができる。 2身体の正常な生理機能の基本を理解し、専門用語を正しく用いて、その機能の意義・重要性を説明できるようになる。
成績評価方法及び基準	必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 前期末試験80%+平常点(提出物・出席)20%の計100%の評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 授業の妨害(私語、多科目の勉強、寝る)は、口頭で注意する。
教育・実務業績	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 授業の妨害(私語、多科目の勉強、寝る)は、口頭で注意する。 1、担当科目における教育上の業績 平成15年4月～現在まで 平成医療学園専門学校 鍼灸師科教員 平成医療学園専門学校 鍼灸師科教員として在籍 平成17年4月～平成21年3月31日 大阪大学専修学校研修員 大阪大学 歯学部 解剖学教室にて解剖を行う。 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 平成22年4月～平成23年3月31日 大阪大学歯学部付属病院 病院研修生 大阪大学歯学部付属病院 歯科麻酔科 鍼灸研修生として在籍 頭頸部の痛みや麻痺の鍼灸治療を行う。

1 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		A. ニューロンの構造と働き
使用する材料		教科書 p165～
備考		配布プリント
2 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		B. 神経線維の興奮伝導
使用する材料		教科書 p167～
備考		配布プリント
3 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		B. 神経線維の興奮伝導
使用する材料		教科書 p167～
備考		配布プリント
4 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		C. シナプス伝達
使用する材料		教科書 p172～
備考		配布プリント
5 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		C. シナプス伝達
使用する材料		教科書 p172～
備考		配布プリント
6 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		D. 中枢神経系の分類と機能 E. 反射
使用する材料		教科書 p178～
備考		配布プリント
7 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		G. 脳幹 H. 小脳
使用する材料		教科書 p184～
備考		配布プリント
8 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		I. 視床 J. 視床下部
使用する材料		教科書 p186～
備考		配布プリント
9 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		K. 大脳
使用する材料		教科書 p189～
備考		配布プリント
10 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		M. 末梢神経系
使用する材料		教科書 p198～
備考		配布プリント
11 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		N. 自律神経系
使用する材料		教科書 p201～
備考		配布プリント
12 項	目	第10章 神経
学習目標・ポイント		N. 自律神経系
使用する材料		教科書 p201～
備考		配布プリント
13 項	目	第11章 筋
学習目標・ポイント		A. 骨格筋の構造と働き
使用する材料		教科書 p218～
備考		配布プリント
14 項	目	第11章 筋
学習目標・ポイント		B. 筋の収縮の仕組み
使用する材料		教科書 p221～
備考		配布プリント
15 項	目	第11章 筋
学習目標・ポイント		C. 筋収縮のエネルギー D. 心筋と平滑筋
使用する材料		教科書 p223～
備考		配布プリント

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	基礎実技Ⅱ
担 当 教 員	木場 宜子
カ リ キ ュ ラ ム 名	基礎実技Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	2(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	お灸は治療においても、また予防医学の面でも、非常に優れた効果を持つ。灸術の基礎を学び身につけることで、鍼灸師になったときにも、鍼と同じくらい灸治療ができるようにする。
到 達 目 標	目的に応じた大きさ、形を選択し、安全に施灸することができる。
成績評価方法及び基準	単位認定試験と授業内評価(小テストやレポート)を合わせて100%で評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 指示のない限り携帯を授業中みるのは禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	【教育実績】H17年 はり師きゅう師免許取得後、平成医療学園にて教員助手として勤務 H20年 はり師きゅう師教員免許取得後、平成医療学園にて教員として勤務 【実務実績】H20～ 4 26 鍼灸院開業 以後、令和8年現在に至るまで開業中 【学会実績】H19日本鍼灸史学会 『呉氏医聖堂叢書における鍼灸』 口頭発表 H20日本鍼灸史学会 『家庭に於ける実際的看護の秘訣の鍼灸』 口頭発表 H21日本鍼灸史学会 『後藤流の灸法』 口頭発表 H22日本鍼灸史学会発表 『香川流の灸法』 口頭発表 H23日本鍼灸史学会 『名古屋玄医の灸法』 口頭発表 H24日本鍼灸史学会 『和田東郭の灸法』 口頭発表

1 項 目	きゅう道具の説明 ガイダンス
学 習 目 標・ポ イ ン ト	道具について 板に線を引く
使 用 す る 材 料	
備 考	
2 項 目	お灸体験 お灸の効能(足三里・三陰交・太溪)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	隔物灸でお灸をしてみよう
使 用 す る 材 料	
備 考	
3 項 目	艾の品質と鑑別 艾の保存 艾炷の捻り方1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
4 項 目	灸術の種類 艾炷の捻り方2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
5 項 目	灸術の種類 艾炷の捻り方3
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
6 項 目	施灸練習1 板の上に 5／分
学 習 目 標・ポ イ ン ト	きれいに真っ直ぐ置くことを中心に練習する。紙に施灸する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
7 項 目	施灸練習2 板の上に 10／分
学 習 目 標・ポ イ ン ト	きれいに真っ直ぐ置けて早く据える
使 用 す る 材 料	
備 考	
8 項 目	施灸練習3 板の上に 10／分
学 習 目 標・ポ イ ン ト	きれいに真っ直ぐ置けて早く据える
使 用 す る 材 料	
備 考	
9 項 目	施灸練習4 八分灸を据えよう
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
10 項 目	施灸練習5 八分灸を据えよう
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
11 項 目	施灸練習6 八分灸を据えよう
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
12 項 目	足三里に据えよう
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
13 項 目	テスト練習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
14 項 目	テスト
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	
15 項 目	テスト
学 習 目 標・ポ イ ン ト	
使 用 す る 材 料	
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	臨床医学総論Ⅰ
担 当 教 員	西浦 絵美
カ リ キ ュ ラ ム 名	臨床医学総論Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	臨床医学総論はいわゆる診断学として位置づけられているもので、患者の診察から診断までの思考過程を会得することが目的である。鍼灸師は、その診察的特徴からプライマリケアとしての役割を担うため、より患者の側にたった目線からの確な鑑別診断を行い、患者や家族への心理社会的側面への配慮、予防医学的ケアを東西医学の知識の元で実践できるような知識の教授を行う。
到 達 目 標	治療者-患者的対応について理解できる。医療面接について理解できる。現代医学的診察技法の手法と意義を理解し説明できる。バイタルサインの意味を理解し異常について分かる。全身診察の手法と意義を理解できる。局所の診察の手法と意義について理解できる。一般臨床検査の項目と数値の意味を理解できる。各症候の分類や症状と疾患との関係について理解できる。物理療法や神経ブロックなどの治療法について知っている。心理療法について知っている。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10. 試験について【必要出席数】』に準ずる。 中間試験30%、単位認定試験で70%の合計100%の評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	2010年4月～2012年9月 明治東洋医学院専門学校付属治療所の研修員として勤務 2010年4月～2012年3月 整形外科ひろクリニックに勤務 2012年10月～現在 平成医療学園専門学校にて解剖学・生理学・基礎実技・臨床医学総論・リハビリテーションなどの講義を行う

1 項 目	第1章 第2章
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・医療面接とは何かを知っている ・POSを理解している ・身体診察の手法の概要を理解している
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
2 項 目	第3章 バイタルサイン:発熱、脈拍、不整脈、血圧、呼吸
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・バイタルサイン ・熱型 ・頻脈、徐脈を呈する代表疾患。 ・アダムスストークス症候群・血圧の測定方法および高血圧分類
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
3 項 目	第3章 第4章 全身の診察
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・疾患の特徴的な顔貌、体型 ・JCS、GCS ・肥満とやせ、るいそう
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
4 項 目	第4章 全身の診察:顔貌、精神状態、体型体格
学 習 目 標・ポ イ ン ト	異常歩行について
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
5 項 目	第4章 全身の診察:顔貌、精神状態、体型体格姿勢、歩行、皮膚・粘膜
学 習 目 標・ポ イ ン ト	浮腫、発疹について
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
6 項 目	第5章 局所の診察:頭部・顔面・頸部の観察、目耳鼻の診察
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・眼瞼下垂 ・伝音性難聴と感音性難聴
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
7 項 目	第5章 局所の診察:目耳鼻の診察、口舌歯咽喉頭部の診察
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・口臭 ・コプリック斑 ・ジフテリアにおける咽頭部の症状 ・舌下神経麻痺、片麻痺における舌の偏位の所見 ・イチゴ舌 ・ハンター舌炎
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
8 項 目	第5章 局所の診察:頸部、胸部、乳房
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・圧痛・疼痛を伴うリンパ節腫脹、伴わないリンパ節腫脹 ・甲状腺腫 ・バセドウ病と橋本病のちがい ・胸郭異常
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
9 項 目	第5章 局所の診察:肺・胸膜
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・胸部打診、肺肝境界、正常呼吸音の種類 ・気胸と胸水の打診・聴診・声音振とう ・副雑音(う音・胸膜摩擦音)の特徴
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
10 項 目	第5章 局所の診察:心臓
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・心尖拍動 ・心音の聴診部位 ・僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症における心音の違い ・心雑音について理解している
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
11 項 目	第5章 局所の診察:腹部
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・腹膜炎、虫垂炎、急性胆のう炎に見られる触診の徴候 ・機械性イレウスと麻痺性イレウスの蠕動運動とグル音の違い
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
12 項 目	第5章 局所の診察:腹部
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・腹水
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
13 項 目	第5章 局所の診察:背部、四肢
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・四肢の変形
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
14 項 目	第6章 神経系の診察:知覚検査、反射検査、反射検査(深部反射、病的反射、錐体路障害)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・錐体路障害、下位運動ニューロン障害の違い ・錐体路障害、錐体外路障害の違い
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	
15 項 目	第6章 神経系の診察:脳神経系検査、髄膜刺激症状
学 習 目 標・ポ イ ン ト	・髄膜刺激症状
使 用 す る 材 料	教科書
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	東洋医学臨床論Ⅱ
担 当 教 員	比嘉 翔平
カ リ キ ュ ラ ム 名	東洋医学臨床論Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	2(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	臨床での遭遇頻度が高い疾患の病態・徒手検査・治療方針を理解する。また、鍼灸治療の適応判断および治療に伴う配穴を考えることができる。
到 達 目 標	前期授業終了時には西洋医学的な病態・徒手検査、配穴が理解できている。 自ら疾患に対する徒手検査・治療法(配穴)を考えることができる。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で試験(70%)、小テスト(20%)、授業内評価(10%)を合わせて100%で評価を行う等。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	1、担当科目における教育上の業績 2018年4月～2020年3月: 明治国際医療大学大学院修士課程にて臨床鍼灸学を専攻 2018年4月～2020年3月: 明治国際医療大学附属鍼灸センター実習(3年生)の臨床実習指導 2018年4月～2021年3月: 明治国際医療大学にて講義・演習補助 科目: 「臨床はりきゅう技術学Ⅱ 治効機序」および「キャリアデザイン」 2020年4月～2023年3月: 明治国際医療大学大学院博士課程にて鍼灸学を専攻 2023年4月～ : 平成医療学園専門学校にて鍼灸師科講義を担当 2024年4月～ : 平成医療学園専門学校にて東洋療法養成学科講義を担当 2025年4月～ : 明治国際医療大学大学院鍼灸学研究科 地域コミュニティ学寄付講座 客員研究員 2、実務上の業績(臨床経験等) 2018年4月～2023年3月: 明治国際医療大学附属鍼灸センターでの施術(大学院生) 2019年4月～2021年9月: 京都桂川鍼灸院mythos361での施術(大学院) 2023年4月～ : 平成医療学園専門学校附属鍼灸整骨院での施術 3、研究業績 2018年: 第67回全日本鍼灸学会学術大会 大阪大会 学生ポスター発表(優秀賞) 2019年: 第68回全日本鍼灸学会学術大会 愛知大会 一般ポスター発表 2021年: 第50回日本慢性疼痛学会 口演発表(Web発表) 2022年: 第44回日本疼痛学会・第2回日本術後痛学会 口演発表 2023年: 第72回全日本鍼灸学会学術大会 神戸大会 口演発表 2025年: 第55回日本慢性疼痛学会 口演発表

1 項 目	前年度の復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の授業内容について、どのくらい身についているのか確認する。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
2 項 目	運動器疾患1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の内容を復習し、対応する治療部位を覚える。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
3 項 目	運動器疾患2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の内容を復習し、対応する治療部位を覚える。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
4 項 目	運動器疾患3
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の内容を復習し、対応する治療部位を覚える。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
5 項 目	運動器疾患4
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の内容を復習し、対応する治療部位を覚える。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	スポーツ外傷(上肢)
6 項 目	運動器疾患5
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前年度の内容を復習し、対応する治療部位を覚える。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	スポーツ外傷(下肢)
7 項 目	頭痛
学 習 目 標・ポ イ ン ト	頭痛の鑑別ができ、病態・症状を理解する。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	筋収縮性頭痛、片頭痛、緊張性頭痛、群発性頭痛
8 項 目	顔面痛・顔面神経麻痺
学 習 目 標・ポ イ ン ト	顔面痛・顔面神経麻痺の鑑別ができ、病態・症状を理解し治療法を考えられる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	三叉神経痛、末梢性顔面神経麻痺、中枢性顔面神経麻痺
9 項 目	めまい・耳鳴り・難聴
学 習 目 標・ポ イ ン ト	内耳の血流障害について理解できる。病態を把握し治療方針を考えられる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	メニエール病、突発性難聴、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、聴神経鞘腫
10 項 目	歯痛、眼精疲労、鼻閉鼻汁、脱毛
学 習 目 標・ポ イ ン ト	病態・症状を理解し治療方針を考えられる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
11 項 目	咳嗽・喘息・胸痛
学 習 目 標・ポ イ ン ト	喘息、胸痛の病態・症状を理解する。また重篤症状、刺入深度についても理解する。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	気胸、喘息、肋間神経痛
12 項 目	腹痛・悪心嘔吐・便秘・下痢
学 習 目 標・ポ イ ン ト	腹部の疾患を理解し、鑑別ができる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	胃炎、胃痙攣、GERD、便秘の3分類と治療、過敏性腸症候群
13 項 目	排尿障害
学 習 目 標・ポ イ ン ト	排尿異常の機序の理解、排尿障害の疾患の理解・鑑別・治療方針が考えられる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	前立腺炎、神経因性膀胱、過活動膀胱、膀胱炎
14 項 目	月経異常・更年期障害
学 習 目 標・ポ イ ン ト	女性疾患全般の理解、鍼灸治療について理解できる。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	子宮内膜症、PMS、月経過多
15 項 目	まとめ
学 習 目 標・ポ イ ン ト	単位認定試験に向けて確認を行う。
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	臨床実技Ⅰ
担 当 教 員	迫 宏典
カ リ キ ュ ラ ム 名	臨床実技Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	疾患に対する知識と検査を習得し、治療部位に適切に鍼灸治療を行うことを目的とする。各疾患に対して、主症状や鑑別ポイントを中心に解説し、徒手検査(必要に応じて、反射・知覚・筋力検査)を学習する。その後、治療部位に鍼灸治療を行う。
到 達 目 標	患者の主症状から必要な検査を行い病態把握し、適切な治療を行えるようになることを目標とする。
成績評価方法及び基準	前期単位認定試験成績を最終成績とする。 (前期単位認定試験にて徒手検査、はりきゅう実技を評価し60点以上を合格、59点未満を不合格とする。)
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	実技マニュアル、はりきゅう道具持参
教育・実務業績	[職歴] 平成28年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 契約教員 (担当科目:骨学、脈管学、外科・整形、運動学、臨床実技Ⅰなど) 平成29年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:骨学、脈管学、外科・整形、運動学、臨床実技Ⅰ、総合実技Ⅰなど) [学会発表] 平成27年 (公社)全日本鍼灸学会 第35回近畿支部学術集会一般演発表「温熱療法に円皮鍼刺激を併用することで運動負荷による下腿後足部皮膚表面温低下を遅延させることができるのか。－無刺激、偽円皮鍼刺激との比較－」 平成28年 第33回 日本サーモロジー学会 一般演題発表「スポーツ競技者に対する円皮鍼刺激の下腿後足部皮膚温への影響について－偽円皮鍼刺激、無刺激との比較検討－」 [研究歴] 平成28年 大阪大学歯学部解剖見学実習学生引率(～現在) 平成31年 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講義 専修学校研修員(～現在) 平成31年 関西医療大学大学院 準研究員(～令和2年) [業 績] 令和3年 大阪府私学教育功労者表彰

1 項 目	ガイダンス、頸部(頸椎症・外傷性頸部症候群・頸椎捻挫)
学 習 目 標・ポイント	病態把握について必要な反射、触覚、筋力、関節可動域の概要を説明する。 疾患、検査(反射)、治療部位
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	打鍵器、寸3-1番
2 項 目	頸部(頸椎症性神経根症・頸椎症性脊髄症・頸椎椎間板ヘルニア) 1
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	打鍵槌、寸3-1番、寸3-3番
3 項 目	頸部(頸椎症性神経根症・頸椎症性脊髄症・頸椎椎間板ヘルニア) 2
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	打鍵槌、寸3-1番、寸3-3番
4 項 目	胸郭出口症候群1
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番
5 項 目	胸郭出口症候群2
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番
6 項 目	肩関節障害(腱板損傷・腱板断裂)
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番
7 項 目	肩関節障害(肩峰下インピンジメント・肩峰下滑液包炎)
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番
8 項 目	肩関節障害(上腕二頭筋長頭腱炎)
学 習 目 標・ポイント	疾患病態の理解、必要な徒手検査、治療方法
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番
9 項 目	上肢末梢神経障害1
学 習 目 標・ポイント	疾患、検査、治療部位
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番、寸6-3番
10 項 目	上肢末梢神経障害2
学 習 目 標・ポイント	疾患、検査、治療部位
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番、寸6-3番
11 項 目	試験説明・徒手検査復習
学 習 目 標・ポイント	徒手検査に必要なスキルを身につける。
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	打鍵槌など
12 項 目	鍼灸実技・取穴復習
学 習 目 標・ポイント	鍼灸実技に必要なスキルを身につける。
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	寸3-1番、寸3-3番、寸6-3番
13 項 目	上肢MMT1
学 習 目 標・ポイント	検査(上腕二頭筋、腕頭骨筋、上腕三頭筋、浅指屈筋、深指屈筋、背側骨間筋、掌側骨間筋)
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	
14 項 目	上肢MMT2
学 習 目 標・ポイント	検査(上腕二頭筋、腕頭骨筋、上腕三頭筋、浅指屈筋、深指屈筋、背側骨間筋、掌側骨間筋)
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	
15 項 目	総復習(頸部、胸郭部、肩部)
学 習 目 標・ポイント	
使 用 す る 材 料	
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	応用実技Ⅱ
担 当 教 員	木場 宜子
カ リ キ ュ ラ ム 名	応用実技Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	2(30)
配 当 年 次	3年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	現代医学は非常に進み我々はその恩恵を受けてきたが、その一方で人間関係の疎外が進み、エビデンスから外れた患者を孤独にする側面も持つ。東洋医学を基礎から学び理解することで、治療に応用できるようにする。
到 達 目 標	四診を用いて診断し、治療を組み立てることができる。
成績評価方法及び基準	単位認定試験と授業内評価(小テストやレポート)を合わせて100%で評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 指示のない限り携帯を授業中みるのは禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	【教育実績】H17年 はり師きゅう師免許取得後、平成医療学園にて教員助手として勤務 H20年 はり師きゅう師教員免許取得後、平成医療学園にて教員として勤務 【実務実績】H20～ 4 26 鍼灸院開業 以後、令和8年現在に至るまで開業中 【学会実績】H19日本鍼灸史学会 『呉氏医聖堂叢書における鍼灸』 口頭発表 H20日本鍼灸史学会 『家庭に於ける実際的看護の秘訣の鍼灸』 口頭発表 H21日本鍼灸史学会 『後藤流の灸法』 口頭発表 H22日本鍼灸史学会 発表 『香川流の灸法』 口頭発表 H23日本鍼灸史学会 『名古屋玄医の灸法』 口頭発表 H24日本鍼灸史学会 『和田東郭の灸法』 口頭発表

1 項 目	治療の基本 背部俞穴で治療する
学習目標・ポイント	九刺の輪刺 俞穴各論
使用する材料	ユニコ寸3ー1
備考	
2 項 目	治療の基本 背部俞穴で治療する
学習目標・ポイント	九刺の輪刺 俞穴各論
使用する材料	ユニコ寸3ー1
備考	
3 項 目	治療の基本 背部俞穴で治療する
学習目標・ポイント	九刺の輪刺 俞穴各論 単刺術 置針
使用する材料	ユニコ寸3ー1
備考	
4 項 目	気虚、気滞、陽虚の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
5 項 目	気虚、気滞、陽虚の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
6 項 目	血虚、血瘀、陰虚の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
7 項 目	血虚、血瘀、陰虚の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
8 項 目	痰湿、湿熱の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
9 項 目	痰湿、湿熱の治療穴と治療法
学習目標・ポイント	
使用する材料	寸3ー1 散モグサ
備考	
10 項 目	治療体験
学習目標・ポイント	四診を用いて診断し、治療の原則を選穴し、治療する
使用する材料	寸3ー1、2、3番 きゅう道具
備考	
11 項 目	治療体験
学習目標・ポイント	四診を用いて診断し、治療の原則を選穴し、治療する
使用する材料	寸3ー1、2、3番 きゅう道具
備考	
12 項 目	治療体験
学習目標・ポイント	四診を用いて診断し、治療を組み立てることができる。
使用する材料	寸3ー1、2、3番 きゅう道具
備考	
13 項 目	テスト練習
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	
14 項 目	テスト
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	
15 項 目	テスト
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	外科・整形
担 当 教 員	赤井 昂平
カ リ キ ュ ラ ム 名	臨床医学各論Ⅲ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	後期
授 業 概 要 ・ 目 的	教科書をベースに国家試験に対応した知識および臨床現場にて頻繁に遭遇する外傷・障害の知識を養う。
到 達 目 標	はり師・きゅう師国家試験に出題が予想される外科疾患・整形外科疾患・麻酔科学について理解を深め、国家試験過去問を確実に解けるようにする。また、臨床において頻繁に出会う疾患についても理解を深める。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	令和3年 国際東洋医療学院 鍼灸科 卒業 令和6年 国際東洋医療学院 柔道整復科 卒業 令和8年 平成医療学園専門学校 東洋療法教員養成科 卒業 令和8年 平成医療学園専門学校入職 入職後の担当科目 解剖学Ⅱ(筋) 解剖学Ⅲ(脈管) 臨床医学各論Ⅲ(外科・整形) はりきゅう理論Ⅰ 生体観察(触察解剖) 臨床実技Ⅲ 業務上の業績(臨床経験等) 2024年4月～2026年1月:医療法人垣尚会兵田クリニックでの施術

1 項 目	第13章 その他の領域 B. 一般外科 損傷概論(熱傷／凍瘡と凍傷)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
2 項 目	第13章 その他の領域 麻酔科(総論)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	麻酔の種類および方法、適応疾患、一般的な薬剤について理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
3 項 目	第8章 整形外科疾患 B. 関節疾患
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
4 項 目	第8章 整形外科疾患 C. 代謝性骨疾患・骨腫瘍
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
5 項 目	第8章 整形外科疾患 D. 筋・腱疾患
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
6 項 目	第8章 整形外科疾患 E. 形態異常
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
7 項 目	第8章 整形外科疾患 F. 脊椎疾患1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
8 項 目	第8章 整形外科疾患 F. 脊椎疾患2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
9 項 目	第8章 整形外科疾患 G. 脊髄損傷
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
10 項 目	第8章 整形外科疾患 H. 外傷(骨折・脱臼・捻挫)1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
11 項 目	第8章 整形外科疾患 H. 外傷(骨折・脱臼・捻挫)2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
12 項 目	第8章 整形外科疾患 H. 外傷(スポーツ外傷・障害)1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
13 項 目	第8章 整形外科疾患 H. 外傷(スポーツ外傷・障害)2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
14 項 目	第8章 整形外科疾患 I. その他の整形外科疾患
学 習 目 標・ポ イ ン ト	外傷・障害の基本的な病態を解剖生理学的に理解する。
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	
15 項 目	総復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	今まで学んだことの要点を再確認、期末テスト対策
使 用 す る 材 料	教科書・配布プリント
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	東洋医学臨床論Ⅲ
担 当 教 員	上野 暁生
カ リ キ ュ ラ ム 名	東洋医学臨床論Ⅲ
単 位 数 (時 間 数)	2(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	後期
授 業 概 要 ・ 目 的	鍼灸師が臨床上遭遇しやすい疾患の東洋医学的な病態、配穴を理解する。その他以下の内容も理解する。 ・鍼灸治療適応か否か、注意すべき(病院受診を促すべき)疾患の理解。 ・後期は東洋医学的な病態(弁証論治)、配穴に重点を置く。
到 達 目 標	後期授業終了時には東洋医学的な病態(弁証論治)配穴が理解出来ている。 疾患に対し自らに弁証論治を行い、治療法(配穴)を考えることが出来る。
成績評価方法及び基準	前期単位認定試験の試験結果、出席状況、授業態度などを総合的に勘案し評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	平成24年 明治国際医療大学 鍼灸学科 卒業 平成26年 明治国際医療大学大学院 臨床鍼灸学 卒業 平成26年 平成医療学園専門学校入職 入職後の担当科目 東洋医学臨床論 東洋医学的な四診実技 臨床実習

1 項 目	東洋医学概論の復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	東洋医学概論の授業内容についてどのくらい身に付いているのか確認
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
2 項 目	東洋医学概論の復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	東洋医学概論の授業内容についてどのくらい身に付いているのか確認
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
3 項 目	東洋医学概論の復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	東洋医学概論の授業内容についてどのくらい身に付いているのか確認
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
4 項 目	肩こり
学 習 目 標・ポ イ ン ト	肩こりの東洋医学的分類を理解し鑑別できる。風寒邪、肝血虚、寒飲、気滞血瘀
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
5 項 目	腰痛
学 習 目 標・ポ イ ン ト	腰痛の3つの東洋医学的タイプの症状を理解し治療ができる。気滞血瘀、寒湿邪、腎気虚、腎陽虚、肝腎陰虚
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
6 項 目	頭痛1
学 習 目 標・ポ イ ン ト	頭痛の東洋医学的考え方の分類を理解し鑑別できる。また治療穴を考え配穴ができる。外感性の頭痛、肝火上炎、肝陽上亢
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
7 項 目	頭痛2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	頭痛の東洋医学的考え方の分類を理解し鑑別できるまた治療穴を考え配穴ができる。気血両虚、痰濁、腎虚、瘀血
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
8 項 目	痺証1(関節痛)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	痺証について理解できる。痺証の分類ができる。行痺、着痺、痛痺、熱痺
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
9 項 目	痺証2
学 習 目 標・ポ イ ン ト	痺証について理解できる。痺証型か否か鑑別できる。肝腎陰虚、腎陽虚、骨痺
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
10 項 目	悪心、嘔吐
学 習 目 標・ポ イ ン ト	東洋医学的考え方の分類を理解し鑑別できる。気虚便秘、血虚便秘、胃熱による便秘、気滞便秘、肝脾不和、脾腎陽虚
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
11 項 目	食欲不振
学 習 目 標・ポ イ ン ト	食欲不振の東洋医学的分類を理解し鑑別できる。胃陰虚、脾胃湿熱
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
12 項 目	便秘
学 習 目 標・ポ イ ン ト	便秘の分類を理解し鑑別が出来る。主な病証を理解し治療が出来る。熱秘、気秘、虚秘、冷秘
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
13 項 目	下痢
学 習 目 標・ポ イ ン ト	下痢の分類を理解し鑑別が出来る。主な病証を理解し治療が出来る。外邪、傷食、肝鬱、脾胃虚弱、腎陽虚
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
14 項 目	月経異常
学 習 目 標・ポ イ ン ト	奇形八脈についての理解。月経異常の分類を理解し鑑別出来る。経早、経遅、経乱
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	
15 項 目	全範囲のまとめ
学 習 目 標・ポ イ ン ト	単位認定試験に向けて確認を行う
使 用 す る 材 料	プリント・教科書
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	鍼灸師科
開 講 科 目 名	基礎実技Ⅰ
担 当 教 員	比嘉 翔平
カ リ キ ュ ラ ム 名	基礎実技Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	はり治療における鍼の扱い方や手技・刺鍼方法、刺鍼における注意点、患者への配慮について学び、安心かつ安全に施術を行うための臨床基礎の基盤を身に付ける
到 達 目 標	感染防止・有害事象に対するリスク管理に関する正しい知識を身につける。 片手挿管・刺鍼の角度(直刺・斜刺・横刺)が正確にでき、一連の流れに従って衛生的な刺鍼が行える。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 中間実技試験(30%)と単位認定実技試験(70%)を合わせて100%で評価を行う等。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	1、担当科目における教育上の業績 2018年4月～2020年3月: 明治国際医療大学大学院修士課程にて臨床鍼灸学を専攻 2018年4月～2020年3月: 明治国際医療大学附属鍼灸センター実習(3年生)の臨床実習指導 2018年4月～2021年3月: 明治国際医療大学にて講義・演習補助 科目: 「臨床はりきゅう技術学Ⅱ 治効機序」および「キャリアデザイン」 2020年4月～2023年3月: 明治国際医療大学大学院博士課程にて鍼灸学を専攻 2023年4月～ : 平成医療学園専門学校にて鍼灸師科講義を担当 2024年4月～ : 平成医療学園専門学校にて東洋療法養成学科講義を担当 2025年4月～ : 明治国際医療大学大学院鍼灸学研究科 地域コミュニティ学寄付講座 客員研究員 2、実務上の業績(臨床経験等) 2018年4月～2023年3月: 明治国際医療大学附属鍼灸センターでの施術(大学院生) 2019年4月～2021年9月: 京都桂川鍼灸院mythos361での施術(大学院) 2023年4月～ : 平成医療学園専門学校附属鍼灸整骨院での施術 3、研究業績 2018年: 第67回全日本鍼灸学会学術大会 大阪大会 学生ポスター発表(優秀賞) 2019年: 第68回全日本鍼灸学会学術大会 愛知大会 一般ポスター発表 2021年: 第50回日本慢性疼痛学会 口演発表(Web発表) 2022年: 第44回日本疼痛学会・第2回日本術後痛学会 口演発表 2023年: 第72回全日本鍼灸学会学術大会 神戸大会 口演発表 2025年: 第55回日本慢性疼痛学会 口演発表

1 項 目	鍼灸用具についてと実技授業の心構え
学 習 目 標・ポイント	授業時の服装、実技前の準備と実技終了時の片付
使 用 す る 材 料	プリント(授業中の注意事項、実技室使用の注意事項)
備 考	
2 項 目	管鍼法:両手挿管法と片手挿管法1
学 習 目 標・ポイント	鍼の起源について:管鍼法と撚鍼法の違いを理解し、管鍼法の基本手技を学ぶ
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
3 項 目	管鍼法:片手挿管法2
学 習 目 標・ポイント	片手挿管法の一連の流れを理解する:押手、切皮弾入
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
4 項 目	刺鍼の一連の流れ1
学 習 目 標・ポイント	前揉法～押手～弾入・切皮～抜鍼～後揉法～片手挿管
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
5 項 目	刺鍼の一連の流れ2
学 習 目 標・ポイント	刺入:送り込み刺法・旋撚刺法
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
6 項 目	刺鍼の一連の流れ3
学 習 目 標・ポイント	刺鍼の角度:直刺・斜刺・横刺
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
7 項 目	刺鍼中の手技1:鍼術の手技について理解する。
学 習 目 標・ポイント	1単刺術2雀啄術3間歇術4屋漏術5振戦術
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
8 項 目	刺鍼中の手技1:鍼術の手技について理解する。
学 習 目 標・ポイント	6置鍼術7旋撚術8回旋術9乱鍼術
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
9 項 目	刺鍼中の手技2:鍼術の手技について理解する。
学 習 目 標・ポイント	⑩副刺激術⑪示指打法⑫随鍼術⑬内調術
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	M4:浅刺-呼吸時-坐位の刺鍼
10 項 目	刺鍼中の手技2:鍼術の手技について理解する。
学 習 目 標・ポイント	⑭細指術⑮管散術⑯鍼尖転移法⑰刺鍼転向法
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
11 項 目	実技チェック
学 習 目 標・ポイント	片手挿管、刺入法(送り込み刺法・旋撚刺法)
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3
備 考	
12 項 目	手指の消毒と刺鍼部の消毒
学 習 目 標・ポイント	自身の下肢に刺鍼
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸3-1、寸6-3(各3本/人)
備 考	
13 項 目	片手挿管トライアル、刺入法、刺入角度
学 習 目 標・ポイント	自身の下肢に刺鍼
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸3-1、寸6-3(各3本/人)
備 考	
14 項 目	片手挿管トライアル、刺入法、刺入角度
学 習 目 標・ポイント	自身の下肢に刺鍼
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸6-3(各3本/人)
備 考	
15 項 目	まとめ
学 習 目 標・ポイント	指定した刺鍼方法にて正確に刺鍼する。
使 用 す る 材 料	DS鍼:寸3-1、寸6-3(各3本/人)
備 考	